

[令和7年度事務事業]

I. 基本情報										
事業の位置付け										
1	堺市基本計画2025	施策との関連	有・無	戦略	2.人生100年時代の健康・福祉 ～Well-being～		施策	(4)高齢者が住み慣れた地域で心豊かに暮らし続けられる社会の実現		
			有	取組の方向性	⑤高齢者が安心して暮らし続けられる生活環境の整備					
		寄与するKPI	有・無	指標名	—		目標値	—		
	無		現状値	—		目標値	—			
	堺市SDGs未来都市計画 2021-2025	施策との関連	有・無	ゴール	—		ターゲット	—		
			無	取組	—		ターゲット	—		
寄与するKPI		有・無	指標名	—		目標値	—			
無	現状値	—		目標値	—					
2	関連計画			—						
3	事業開始年度			平成 11 年度		点検対象年度（堺市基本計画2030）		令和 12 年度		
4	実施根拠			介護保険法、堺市高齢者世話付住宅（シルバーハウジング）生活援助員派遣事業実施要綱						
事業の概要										
5	事業の実施主体			本庁、受託法人						
6	事業の対象			生活指導・相談、安否の確認、一時的な家事援助、緊急時の対応等のサービスを必要とする高齢者で市内のシルバーハウジングに入居している者				対象数	単位	
								55	戸	
7	事業の目的			市内のシルバーハウジングに入居している高齢者が安心して暮らせることを目的とする。						
8	事業内容			市内のシルバーハウジングに入居している高齢者世帯に生活援助員を派遣して、生活指導・相談、安否の確認、一時的な家事援助、緊急時の対応等のサービスを提供する。						
	※国・府の基準より上回って実施した内容			—						
9	主な支出先			(福) 南の風、(福) 関西福祉会、(福) 大阪府社会福祉事業団						
10	公民連携・協働事業			—						

事業の成果や活動実績の測定

	成果指標	単位		実績		目標	目標
				令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和12年度
11	派遣回数	回	目標値	—	—	—	—
			実績値	7,727	6,955		
			達成率	—	—		
	当該指標を選定した理由		定期巡回、緊急時の対応等、活動量を把握することができるため				
目標値の設定根拠・算出方法		3住宅の合計。入居者の状況により派遣回数が変動するため、目標設定にはなじまない。					
12	活動指標	単位		実績		目標	
				令和6年度	令和7年度	令和8年度	
	派遣戸数	戸	目標値	—	—	—	
			実績値	60	55		
			達成率	—	—		
当該指標を選定した理由		生活援助員が支援を行う対象数を表しているため。					
目標値の設定根拠・算出方法		入居者の状況により戸数は変動するため、目標設定にはなじまない。					

令和8年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	堺市高齢者世話付住宅（シルバーハウジング）生活援助員派遣事業	事業番号	011-071
-------	--------------------------------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。（単位：千円）

	項 目	令和5年度	令和6年度	令和7年度		令和8年度
		決算	決算	当初予算	決算	当初予算
13	事業費（a）	7,621	7,621	8,459	9,249	8,909
	財 国支出金	2,934	2,934	3,257	3,256	3,313
	源 府支出金	1,467	1,467	1,628	1,629	1,658
	内 市債	0	0	0	0	0
	記 その他（被保険者保険料）	1,753	1,753	1,946	1,945	1,980
	受益者負担金(使用料、手数料等)	0	0	0	0	0
	一般財源	1,467	1,467	1,628	2,419	1,958
14	人件費（b）	0	0	0	0	0
15	年間経費（c）=(a)+(b)	7,621	7,621	8,459	9,249	8,909

事業費の内訳

（単位：千円）

	項 目	年度		事業費	うち 一般財源	項 目	年度		事業費	うち 一般財源
		R7	決算				R7	決算		
16	事業費内訳	シルバーハウジング委託	R8	予算	8,609		R8	予算		
			R7	決算	790		R7	決算		
	生活援助員室空調機器更新工事		R8	予算	300		R8	予算		
			R7	決算			R7	決算		
			R8	予算			R8	予算		
			R7	決算			R7	決算		
			R8	予算			R8	予算		
			R7	決算			R7	決算		

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費

	区 分	単位	令和6年度	令和7年度
			7,727	6,955
17	① 派遣回数	回	7,621	9,249
	② 上記①にかかる年間経費	千円	986	1,330
	③ 単位当たり経費（②÷①×1,000円）	円/単位		
算出についての説明等				

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見

18	令和7年度は、3住宅全55戸を対象に下記①～⑦の目的で合計6,955回生活援助員を派遣した。令和6年度から派遣回数が減少した背景としては、派遣戸数が5戸減少したことで、1日に1回の個別訪問の実施がなかったことが影響している。 ①生活指導及び生活相談、②入居者の安否確認、③一時的な家事援助、④入居者による自主活動や交流会の支援、⑤緊急時の対応、⑥関係機関等との連絡、⑦その他の日常生活上必要な援助 人件費の上昇から、委託料（人件費）を増額したこと、また、経年劣化による空調機器の更新工事を実施したことから、前年度と比較し決算額は増額となったが、生活援助員の派遣により入居している高齢者の暮らしの安心に寄与した。
----	---

KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）

19	市内のシルバーハウジング入居者に対して生活援助員を派遣し、生活指導・相談・安否の確認、緊急時の対応等のサービスを提供することにより、入居者の安心安全な暮らしの確保につながっている。このことから、本事業は、基本計画の取組の方向性である「高齢者が安心して暮らし続けられる生活環境の整備」に寄与するものである。
----	--

令和3年度からの実績等を踏まえた事業の必要性・有効性に係る所見（前年度の事務事業評価で点検対象年度を令和7年度とした事業のみ記載）

20	必要性	■ 高い □ 低い	本事業は、入居者の生活指導・相談・安否の確認、緊急時の対応等を通じて安心安全な暮らしの確保に寄与しており、有効性は高い。また、現在入居者の高齢化も進んでおり、見守り支援の必要性が高まっていることから、事業の継続の必要性も高い。
	有効性	■ 高い □ 低い	